

# 「カムイ」製造の植松電機

# 大樹にロケット寄贈

【大樹】道産小型ハイブリッドロケット「CAMUI(カムイ)」を製造する赤平市の植松電機(植松清社長)から町に、使用済みのロケット1基が寄贈された。町内で打ち上げ実験が繰り返され、宇宙航空研究開発機構(JAXA)から依頼を受けるほどの技術力を高めてきたカムイ。町は今後、道の駅・コスモール大樹や町多目的航空公園、イベント会場などに展示し、町内外の人のロケットへの関心を高め、「宇宙のまち・大樹」をPRする。

カムイは、NPO法人北海道的な支援もあり、ほぼ毎年、道宇宙科学技術創成センター 大樹町で打ち上げ実験を続け(HASTIC)などが主催している。

02年に開発に着手。植松電機 推進剤に火薬ではなく液体機の植松努専務の技術・金銭 酸素とシリエチレンを使うた

## 「宇宙のまち」PR

### 25日から道の駅などで展示

め、安価で安全とされる。今年3月には、JAXAと北大が共同研究を進める宇宙輸送機用エンジンの性能確認実験に使われるなど、高い信頼性を誇る。

今回は同社が感謝の気持ちを含め、過去に打ち上げられた1基を寄贈。機体は全長約3m、重量20kg。エンジンは搭載されていない。町は「有効利用したい。高校など教育分野でも活用できれば」と喜んでいる。



植松電機から贈られたカムイロケット

ロケットは役場内に保管しておき、今後、イベントや講演会ほか、視察の多い同航空公園などで展示する予定。JAXAによる大気球の放球とともに、町内で行われている大きな実験としてアピールしていく方針だ。第1弾として25日から5月下旬まで、道の駅の1階特産品コーナー付近に展示。ロケットの特徴などを説明するパネルなども設置する。

(北雅貴)